

# ◆ 研 究 論 文

# 総合学習に関する長野県の高校の全県状況と

## 特徴的な実践例の研究

### The Trends in Integrated Studies and an Outstanding Practice

### of High Schools in Nagano Prefecture

大学教育センター

宮下 与兵衛

#### はじめに

高等学校での「総合的な学習の時間」（総合学習と略記）が 2003 年度にスタートしてから 14 年目となっている。和井田清司は、「総合学習は、現代的課題や生徒の興味関心・地域や学校の特色に応じて設定した課題について、体験的学習や問題解決的な学習を展開し、児童・生徒の『生きる力』を育成するものである」<sup>1</sup>とその意義を述べ、高橋亜希子も「生徒の切実な実態やニーズに寄り添いつつ、学習題材を工夫し、生徒を外界に連れ出し、青年期に意味ある学びを作り出そうとしてきた高校の総合学習は、高校を取り巻く矛盾の中で、絶えず青年期の『学び』の回復を目指してきた試みであったといえる」<sup>2</sup>と述べている。現在の高校教育がキャリア教育や人権教育、平和教育、国際教育、主権者教育など教科教育の枠を超えた教科横断型の教育が求められている状況下で、その意義はますます高まっていると言える。

しかし、高橋が「現在の高校総合学習は混迷した状況にある。ゆとり教育への批判から、『総合学習』という言葉は敬遠され、各高校も厳しい学校間競争や『特色づくり』に追われている」<sup>3</sup>としているように、総合学習の取り組みは定着しておらず、とりわけ大学受験に力を入れている高校ほど総合学習が疎かにされている傾向が見られる。一方、偏差値学力が低く、生徒指導も大変な高校が学校づくり・授業づくりのために総合学習を活用している事例が広がっている。

本研究では、こうした学校間格差も含めて、総合学習がどのように取り組まれている

---

<sup>1</sup> 和井田清司『高校総合学習の研究—自律的学習の展開—』三恵社、2012年、11頁

<sup>2</sup> 高橋亜希子「戦後の高等学校における総合学習の歴史的変遷—青年期の『学び』の回復としての試み—」『中央学院大学社会システム研究所紀要』8巻2号、2008年、112頁

<sup>3</sup> 同上、112頁

のか調査した。調査は総合学習実践の全県悉皆調査として、中規模県であり、また現場が教育行政から自律性があり、実践力もある県として長野県の県立高校を選定した。長野県では、県教育文化会議が総合学習のスタートした年に実態調査をしてあり、その調査との比較分析もできた。今回の調査も教育文化会議の協力で行った。また、総合学習の実践で特徴的な高校の実践例について分析した。

## 1 調査内容

2016年1月に長野県立高校の総合学習についての悉皆調査を行い、51校(全日制47校、定時制4校)から回答を得た。調査の内容は、①高校の概況 ②実践の概略(テーマ・計画・企画・立案者) ③学習目標・計画・指導・評価 ④研修・発信・課題、の4点である。

## 2 調査結果の分析と考察

### 高等学校における「総合的な学習の時間」に関する調査

#### 指定された質問に関する集計結果

回答学校数：長野県の県立高校 51 校(全日制 47、定時制 4)

Q1 以下にご回答ください。

学校種(学科)に当てはまるものに○をつけてください。

普通科・専門学科・総合学科・その他( )

【結果】(併設学科の高校あり)

「普通科」：38校 「専門学科」：11校 「総合学科」：4校 「その他」：3校(理数科・英語科・国際科)

Q2 以下にご回答ください。

「学校設定教科」「学校設定科目」について、ご記入ください。

ア 導入している

イ 導入していない

【結果】

「ア 導入している」：46校 「イ 導入していない」：4校 無回答：1校

Q3 総合学習は、どのように呼ばれていますか。

( )

**【結果】**

「課題研究」：13校 「総合的な学習の時間」：9校 「総合学習」：6校 「総合」：5校  
「1年次は、『産業社会と人間』 2・3年は『総合的な学習の時間』」：1校  
「総合の時間」：1校 「地域授業」：1校 「総合的な学習、総学」：1校 「総学」：1校  
「キャリアミドル、キャリアチャレンジ」：1校 「キャリアガイダンス」：1校  
「1, 2年では総合学習 3年では『ソーシャルコミュニケーション講座』『福祉と音楽』  
『科学実験工作』『キャリア美術』」：1校 「総合的な学習の時間 1年…総合Ⅰ 2年…  
総合Ⅱ 3年…総合Ⅲ」：1校 「1年：出会う 2年：探求する 3年：選択する」：1  
校 「2年キャリアプランニング (CP) 3年キャリアデザイン (CD)・総合研究」：  
1校 「教科時間外のもので実施 教科時間内のもので実施」：1校 「Iプロ (アイプ  
ロ)」：1校 「進徳ゼミ」：1校 「意識していない?」：1校 「下記の通り」：1校 (Q3  
にて、2年次は「キャリア・スタディ」 3年次は「キャリア・レッスン／総合研究」  
と回答)  
「特になし」：2校 「そのまま」：1校 無回答：6校

Q4 学年ごとに「総合的な学習の時間」のテーマがありましたら、ご記入く  
ださい。

1年( )

2年( )

3年( )

**【結果】**

**1年**

地域学習— 3校 地域体験— 1校 産業社会と人間—1校 考える力・社会性—1  
校

自己理解—5校 いのちと健康—1校 研修旅行—1校 進路学習—2校

職業体験—1校 人権—1校 LHR—1校 学問研究ゼミ—1校

基本的な生活習慣・人を大切にする—1校

**2年**

平和学習—7校 修学旅行—1校 生きる力—1校 インターンシップ—1校

社会と進路—2校 キャリア教育—3校 進路学習—2校 学問研究ゼミ—1校

課題研究ゼミ—1校 基本的な生活習慣・人を大切にする—1校

**3年**

キャリア学習—5校 生きる力—1校 自己実現—1校 進路実現—6校

社会人基礎力—1校 社会で生きるために—1校 小論文講座—1校 進路学習—

2校

課題研究—13校 総合研究—1校 発展的学習—1校

### 3年間同じテーマ

キャリア学習—1校 長野県のグローバル戦略(SGH)—1校 地域と学校の課題—1校

自己実現(進学校)—2校 ライフスタイルの確立—1校 自分と社会—1校

自己のあり方、生き方—1校 自己を見つめ、社会で生きるために—1校

全校で希望分野に分かれて実施—1校 自由テーマ—1校 各科で設定—1校

#### 【総合学習のテーマについての考察】

テーマについて 2004 年度調査の結果と比較してみると次のような特徴が見られる。① 1年次のテーマは 2004 年度調査ではキャリア教育・進路学習という高校が 13 校あったが、今回は 2 校のみで、他の学年に移行している。1年次で最も多かったテーマは「自己理解」であった。② 2年次のテーマは 2004 年度調査では平和学習として沖縄修学旅行とその事前・事後学習という高校が 15 校あったが、今回は 8 校であった。最も多かったキャリア教育・進路学習は 2004 年度と同じ 8 校であった。③ 3年次のテーマは 2004 年度調査ではキャリア教育・進路学習が 10 校であったが、今回は 7 校であった。「進学校」の 7 校は「進路実現」「自己実現」というテーマで進学学習の時間に充てていた。専門学科・総合学科は課題研究の時間になっている。④ 3年間同じテーマを設定している高校が 12 校あったが、テーマは「自己と社会」「地域と学校の課題」など多様であった。

分析すると、①テーマは多様な形で定着してきている。②専門学科・総合学科は課題研究の時間になっている。③「進学校」には進学学習の時間にしてしている高校がある。ということが指摘できる。また、2016 年度の現場の様子を聞くと、昨年度文科省から通知のあった 18 歳選挙権に対応する主権者教育をテーマとしている高校が急増しているようである。長野県の県立高校では、1980 年代から LHR を使った特設学習として、5 月の憲法学習、12 月の戦争と平和の学習が全県的に実施されている。総合学習での平和学習は沖縄修学旅行の事前・当日・事後学習が中心である。

Q5 「総合的な学習の時間」は週の時間割に組み入れていますか。

ア 組み入れている

イ 行事などでまとめてとっている

ウ アとイの両方

エ 他の授業に振り替えている(その科目名: )

## 【結果】

「ア 組み入れている」：23校 「イ 行事などでまとめてとっている」：12校

「ウ アとイの両方」：14校

「エ 他の授業に振り替えている」：2校 「課題研究」、「Q3の通り」(キャリア・スタディ,キャリア・レッスン/課題研究

## 【週の時間割組み入れについての考察】

週の時間に組み入れている高校は45%であり、週時間に組み入れ行事でもとっている高校が27%で、合わせると72%の高校が週の時間に組み入れて実施している。修学旅行などの行事でまとめてとっている高校は24%であった。

Q6 学校全体あるいは各学年における「総合的な学習の時間」の企画・立案は、どのような方(校務分掌上の位置づけ等)が担っていますか。

全校 = ( )

学年 = ( )

## 【結果】

<全校>

「教務」「教務係」：8校 「進路指導係」：3校 「進路係」：2校 「進路係、教務係等」：4校 「学習係の長」「学習指導係主任」：2校 「教頭」：2校 「教育課程委員会」：1校

「教科担任」：1校 「教務・学年会」：1校 「キャリア教育係」：1校

「キャリア教育部産社・総合係」：1校

「総合学習検討委員会(教育課程委員長+教務・進路主任+各学年係+教頭)」：1校

「全校発表会はキャリア学習係」：1校 「総合学推進係」：1校 「総合学科推進部」：1校

「SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)推進委員会」1校 「総合学科」：1校 「各専門科」：1校

「全体でやっている」：1校 無回答：17校

<学年>

「進路係」「学年進路係」「進路担当」「各学年進路指導係」：9校

「学習係」「学年の学習係」「学年学習指導係」：10校 「学習指導係所属の担任」：1校

「各科による」「それぞれの科」「各専門科」：6校 「3学年各科教科担当者」：1校

「学年主任」：5校 「学年会」：3校 「各担当者」：1校 「進路係、学年主任」：1校

「担任会」：1校 「担任」：1校 「主任および係」：1校 「各学年の授業担当者」：1校

「地域授業担当者(1年)、講座担当者(2年)」：1校 「総合学推進係(学年担当担任)」：1校 「キャリア教育係」：1校 「全体でやっている」：1校 「キャリア教育部産社・

総合係」：1校 「1年産社係 2年CP係 3年CD」：1校 「SGH推進委員会」：1校  
無回答：10校

### 【担当の係についての考察】

①校務分掌としては学校全体では教務係や進路係が多く、学年では学習指導係や進路係が多いが、それぞれ多様であり、継続性・系統性のためにはどの係が担当するのがいい課題である。

②テーマとして進路・キャリア教育が多いため進路係が担当している高校が多いが、それらの高校では他のテーマを設定することは難しいという問題がある。

Q7 総合学習のねらいとして、どのような力を育成したいと思いますか。	
( 1特に重視 2やや重視 3あまり重視しない 4特に意識していない )	
ア 問題解決の資質や能力	1 --- 2 --- 3 --- 4
イ 学び方やものの考え方	1 --- 2 --- 3 --- 4
ウ 主体的創造的な探究の態度	1 --- 2 --- 3 --- 4
エ 自己の生き方を考える力	1 --- 2 --- 3 --- 4
オ その他 ( )	

### 【結果】

質問	回答	1	2	3	4	無回答
ア 問題解決の資質や能力		23校	22校	5校	2校	6校
イ 学び方やものの考え方		25校	26校	1校	1校	5校
ウ 主体的創造的な探究の態度		25校	25校	2校	1校	5校
エ 自己の生き方を考える力		27校	17校	3校	5校	6校
オ その他		4校 「キャリア教育、地域や学校の課題」 「主体性・積極性・コミュニケーション力」 「コミュニケーション能力の向上」 「コースごとに異なる」				

### 【総合学習のねらいについての考察】

学習指導要領の「ねらい」に即して質問したが、ほとんどの高校が学習指導要領の「問題解決の資質や能力」「学び方やものの考え方」「主体的創造的な探求の態度」「自己の生き方を考える力」をあげていた。

Q8 総合学習の指導上、どのようなことを重視していますか。  
 ( 1特に重視 2やや重視 3あまり重視しない 4特に意識していない )

ア 探究的な学習	1 --- 2 --- 3 --- 4
イ 共同的な学習	1 --- 2 --- 3 --- 4
ウ 体験活動	1 --- 2 --- 3 --- 4
エ 言語活動	1 --- 2 --- 3 --- 4
オ 各教科・科目との関連	1 --- 2 --- 3 --- 4
オ その他 ( )	

**【結果】**

質問	回答	1	2	3	4	無回答
ア 探究的な学習		23校	23校	5校	2校	5校
イ 共同的な学習		22校	24校	6校	1校	5校
ウ 体験活動		31校	20校	1校	1校	5校
エ 言語活動		12校	18校	16校	6校	6校
オ 各教科・科目との関連		8校	20校	18校	3校	9校
オ その他		2校 「実践態度」 「コースごとに異なる」				

**【指導上どんなことを重視しているかについての考察】**

学習指導要領にある「探求的な学習」「共同的な学習」「体験活動」についてはほとんどの高校が「特に重視」「やや重視」していたが、「言語活動」「各教科・科目との関連」については4割ちかい高校が「あまり重視しない」「特に意識していない」と答えていた。総合学習で学習したことは教科学習によって深めることができるが、こうした連携がされていない高校も多く課題である。

Q9 指導方法の工夫として、どのようなことをされていますか。(複数回答可)

ア 外部講師による講演・技術指導など (内容 )
イ 映画などの鑑賞 (内容 )
ウ 学外見学・学外実習など (内容 )
エ その他 (内容 )

**【結果】**

「ア 外部講師による講演・技術指導など」：41校  
 (企業・進路8校・先輩2校・大学の出前授業4校・まちづくり1校・戦争体験1校・予備校1校・マナー2校・人権1校・平和3校・性教育1校・薬物防止1校)  
 「イ 映画などの鑑賞」：13校



ケ フィールドワーク	13校	ト ウェブページ(作成)	2校
コ 実験や観察	16校	ナ 発表会	27校
サ ベン図	0校	その他	5校

「その他」の記述欄には、「レポート作製 実習製作 その他多数」「教科書、本」「コース授業でかなりやっている」、総合は学年一斉講義式が多い」「各学年で」「コースごとに異なる」という回答がある。

### 【生徒が主体的に学ぶ探求ツールについての考察】

探求ツールとして活用されているものは、「インターネットによる検索」「発表会」「プレゼンテーションソフト」が多くてパターン化しており、指導要領の「指導の手引き」にある最近の多様な探求ツールについては知らないことが多く、活用されていない。こうした探求ツールについては、これからの授業やまた大学や職場で求められるものであり、研修が必要と思われる。

Q11 生徒の学習評価はどのようにしていますか。

### 【結果】

・各科で評価2校 ・学年で統一評価6校 ・担任が評価1校 ・専門科の単位として評価1校 ・レポート・プリント・取りくみで総合評価18校 ・生徒の自己評価を加味して評価3校 ・出席時数で評価1校 ・テストで評価1校 ・記述評価7校 ・三段階評価＋記述1校 ・「産業社会と人間」で数値評価1校

### 【生徒の学習評価についての考察】

学習評価については、①誰が、②どのように、③どういう評価か、ということになる。

①「誰が」については、担任、教科、学年というように学習内容によって分かれている。

②「どのように」については、レポート・プリント・取りくみなどの総合評価で行っている高校が多い。③評価はほとんどが記述による評価で行われていた。

Q12 総合学習の学習計画を作成(更新)する際、どのようなことに配慮していますか。

ア 生徒の学習状況(評価) (複数回答可)

イ 分掌会議や職員会議での議論

ウ その他 (具体的に )

### 【結果】

「ア 生徒の学習状況(評価)」：25校 「イ 分掌会議や職員会議での議論」：17校  
「ウ その他」：10校(学年会の議論3校 ・テーマを大事に2校 ・生徒の能力・適性・生徒の実態で改善1校 ・学年行事や学習発表会に向けて計画1校 ・進路研修などに

主体的に取りくむための準備として1校・外国からの生徒の訪問が多いので交流の時間として1校・各科の検討を大切にしている1校)

無回答：13校

### 【学習計画作成時に配慮していることについての考察】

「生徒の学習状況(評価)」が49%で最も多く、続いて「分掌会議や職員会議での議論」が33%であった。議論については多忙化の中でなかなか時間がとれない実態がある。

Q13 「総合的な学習の時間」の実践について、校内で学習会や研修会はしていますか。

ア している (具体的に )

イ 特に、していない

### 【結果】

「ア している」：14校(課題研究発表会・職員の意見交換会・テーマである沖縄戦についての職員研修・年度末に報告会と年度初めに計画発表・ソーシャルスキルトレーニングやジグソー法などの研修を年数回行っている・時間割に組み入れるべきかの議論・中間報告と研究発表・必要に応じて実施・全校課題研究発表会・事前学習や講話など・新任職員に説明会・校外視察・報告会・毎週の打ち合わせ会)

「イ 特に、していない」：34校 無回答：3校

Q14 「総合的な学習の時間」の授業公開や報告会等をされていますか。

ア している (具体的に )

イ 特に、していない

### 【結果】

「ア している」：26校(年度末の成果発表会を全校で3校・課題研究発表会2校・市民会館で市民にも公開して発表会を実施1校・常時公開している2校・必要に応じて公開1校・全校発表会で地元の企業や中学に案内している1校・科内発表会で下級生が聞く1校・茅野高フォーラムで発表1校・講演会では保護者も参加1校・学年全校発表会を実施2校・壁新聞で発表1校・デュアルシステム発表会1校)

「イ 特に、していない」：25校

### 【学習会・研修会と授業公開・報告会についての考察】

総合学習の実践についての学習会・研修会実施は27%、授業公開・報告会の実施は51%であった。実施している高校では成果発表会や課題研究発表会と研修を組み合わせている高校が多い。報告会は地域にも公開している高校が増えており、地域から学んだことを返しながら、地域と連携していくという点で大切な取りくみと思われる。多忙化の中ではあるが、報告会とも合わせ、今後、研修を増やしていくことが課題である。

Q15 「総合的な学習の時間」を魅力ある学校づくりの機会として位置づけていますか。

ア 位置づけている（具体的に）

イ 特に、位置づけていない

### 【結果】

「ア 位置づけている」：24校(デュアルシステムとして学校・地域・企業で研修している・クリーンオリエンテーリングを通して地域と交流している・地域授業としている・国際科では英文の「善光寺ガイドブック」を作成し、生徒が外国人のガイドをしている・地域体験学習の場として・キャリア教育の充実として・文化祭で展示・総合学科なので当然・舞台芸術を含む「表現ステージ」を開講している・里山学習として・そのために立ち上げた・HPで課題研究を紹介している・学校の将来を生徒も考える機会にしている・高遠藩の藩校の名前をつけて「進徳ゼミ」とし、桜の保護で桜守と連携している・人権平和学習として位置付けている・同窓生による特別講義・特別活動の下支えとして重要・全校登山は本校の特色として実施・「産業社会」を重視している)

「イ 特に、位置づけていない」：27校

### 【総合学習を「魅力ある学校づくり」として位置づけているかについての考察】

「位置づけている」が47%で、「位置づけていない」が53%であった。位置づけている高校では、地域学習や地域づくり参加を「魅力ある学校づくり」にしている高校が多く、長野県の高校の特長と思われる。

Q16 現在、総合学習の実践のうえで、困難を感じている点や課題と考えている点について、ご記入ください。

### 【結果】

・担任が中心となりすぎ、学校全体の取り組みとなっていない ・基礎学力  
・イベント式の企画の準備等で教員の時間的負担が大きい ・年間の授業時間との兼ね合い  
・小さな学校で企画が多く、一つ一つを深められない ・外部に発信するための場所がない  
・毎週充実した実践を続けるのは難しい点もある ・費用の捻出 ・生徒が興味を持ったことに教員や施設・設備が対応できないことがある  
・進学指導に比重を置く中で、どのようにして総合学習の時間を確保するのか  
・一年生で企業体験をして将来を考えるきっかけにしたいが、まだ将来をしっかりと考えられず消化不良になっている  
・総合と生徒の実態が離れているため、少しずつ改善している ・各学年の目標設定  
・授業担当者以外の教師への伝達 ・LHR計画と併行して立案しなければならず煩雑である  
・内容については制約して欲しくない ・教育活動の一環としての学習としての位置づけが明確でない

・進路・生徒相談・学校の魅力づくりなど様々な取りくみができ自由な分曖昧で一貫性のない活動になりやすい ・新しく赴任した先生方の総合学科や科目に対する理解がすまない ・時間が足りないのでテーマ、議論を深めることができない ・担当者は持ち時間の少ない教員に充てられるのだが、総合学習担当未経験者が多くなる ・授業内に位置付けていないので、発表会など行うと生徒の課外活動の時間を圧迫してしまう ・生徒・職員の多忙化・担当者の負担が大きく、また授業時間外での作業が多く生徒の負担も大きい・多忙化で総合にあまり時間がとれない

#### 【総合学習実践について「困難を感じている点や課題」についての考察】

多かったのは多忙化の中で、充実した総合学習を行うための準備が不十分であること。そのため、テーマや企画についての議論を深めることができないということである。生徒の要望に応えられるような施設・設備・場所が不十分ということもある。「進学校」では進学指導のために総合学習の時間が確保できないと述べている。

Q17 最後に、地域学習として県教育委員会の「信州学」の構想がありますが、この点に関してどのように受けとめていますか。(複数回答可)

- ア 総合学習の趣旨にも沿うので、積極的に受けとめている
- イ 従来から地域学習に取り組んでいるので、違和感はない
- ウ トップダウンで全画的に実施するのは違和感を感じる
- エ その他 ( )

#### 【結果】

「ア 総合学習の趣旨にも沿うので、積極的に受けとめている」：3校

「イ 従来から地域学習に取り組んでいるので、違和感はない」：17校

「ウ トップダウンで全画的に実施するのは違和感を感じる」：22校

「エ その他」：4校(・狭い地域についてはすでに取り組んでいる学校もあるのだが、どう取り組むのか ・特に考えはない ・工業高校の課題研究にはなじみにくい気がする ・地域学習はしており、引き続き行う予定)

無回答：9校

#### 【長野県教委の「信州学」構想の受けとめについての考察】

「信州学」は2016年度から実施されているが、この調査時である実施前年度の受けとめとしては、「積極的に受けとめている」が6%、「従来から地域学習に取り組んでいるので、違和感はない」が33%、「トップダウンで全画的に実施するのは違和感を感じる」が43%であった。地域学習という内容については大切だと理解されているが、突然下ろされたことへの抵抗感が少なからずあるということである。教育行政が教育内容について下ろす場合は現場との合意形成を大事にする必要がある。

県教委は2016年度、テキスト「わたしたちの信州学」(満蒙開拓と戦争との関わりな

ども記載されている)を県内の1年生全員に配布して、また講師料や生徒の学習交通費などとして各校に十数万円の補助を行った。

### 3 辰野高校の総合学習の事例研究

長野県辰野高校の総合学習は、①「総合的な学習の時間」による学習として、1学年は地域学習、2学年は平和学習、3学年はキャリア学習が行われている。1学年の地域学習では図書委員会が作成した『辰高・辰野町検定』(80頁)のテキストによる学習、また「信州学」(県教委が2016年より実施)として松代大本営遺跡の見学などが行われている。2学年の平和学習は沖縄修学旅行の事前学習・本番のフィールドワーク・事後学習という内容である。学習の中心は沖縄戦学習と米軍基地の学習である。

②特設学習として、ロングホームルームを使い実施されているのが、5月の憲法学習、9月の人権学習、12月の平和学習である。この時間の確保は「総合的な学習の時間」を充てている。憲法学習は学年ごとにテキストとプリントによる学習、人権学習と平和学習は講演や映画鑑賞による学習が多い。

③学校改革と一体の主権者教育として20年間にわたり実施してきているのが、「三者協議会」と「フォーラム」である。「三者協議会」は生徒・保護者・教師の代表で学校運営について協議するもので、校則の変更や授業の改善などの要求を出して、三者で合意したら実施されるものであり、ヨーロッパ型の生徒の学校運営参加による体験的な主権者教育になっている。これはまた、三者の話し合いによる内発的な学校改革として推進されている。

「フォーラム」は年一回実施されている高校生と地域住民の話し合いの場であり、この話し合いを通じて生徒たちは地域の公民館活動や地域づくり活動に参加してきている。この地域活動は米国の「サービス・ラーニング」と似たシティズンシップ教育になっている。

このような自治的体験による主権者教育である「三者協議会」は長野県では辰野高校の他に6校、「フォーラム」は4校、そして高校生による地域活動は専門高校ばかりでなく普通高校でも増加している。

辰野高校の総合学習の特徴は、高校生に必要な学習である、平和学習、憲法学習、人権学習、地域学習、キャリア学習、性教育を「総合的な学習の時間」を有効につかひながら、各教科学習と連携させて教育課程に組んでいること、「三者協議会」と「フォーラムと地域づくり参加」を通じて主権者教育、民主主義教育を高校生の参加体験で学んでいることである。

#### まとめ

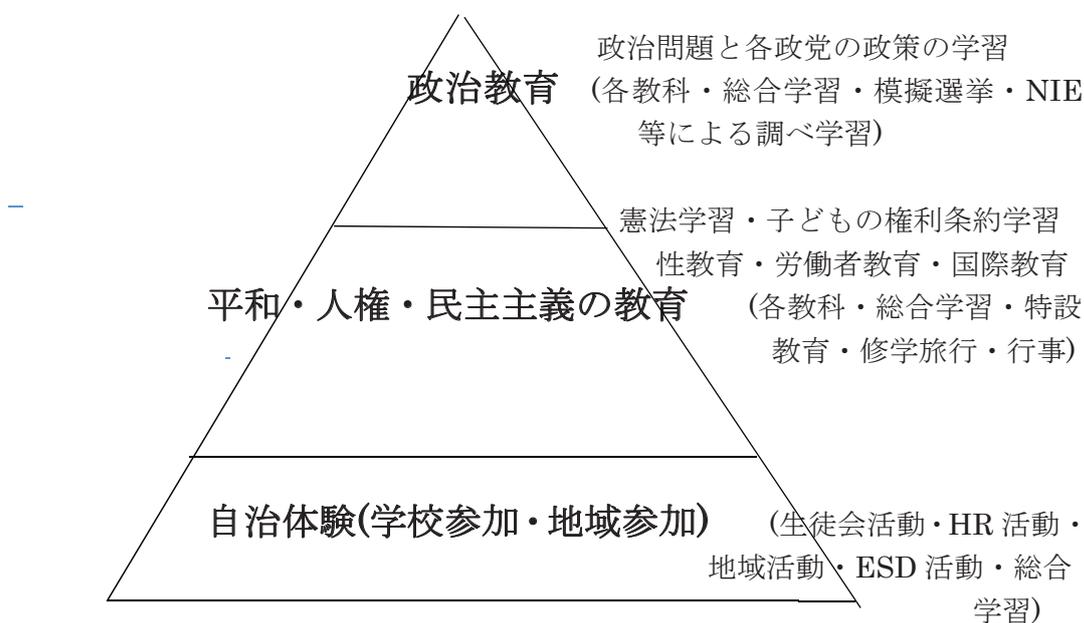
総合学習実践の学校間格差は予想したように、いわゆる「進学校」の多くでは調査結果から、総合学習の時間を「進路実現」などとして進学学習の時間に充てていることが

分かった。

このために、「進学校」以外の高校で総合学習として取り組んでいる地域学習、平和学習、キャリア学習などがほとんどなされていない。また時間がないということで、性教育や人権教育などもほとんどなされていない。ここ数年間で、偏差値学力の高い数校の大学で男子学生による女子学生への性暴力事件が発生している。偏差値学力は高いが、人権意識が低く、性に対する意識・知識が歪んでいる事件であり、「進学校」の教育内容について検討が必要であると言える。

18歳選挙権実施に伴い、文部科学省は2015年10月に「政治的教養教育と高校生の政治活動に関する通知」を出し、全高校生に副教材を配布して、有権者教育・主権者教育をすすめるように通知した。高校現場では年度途中の通知だったために、公民科中心に対応したが、この調査の翌年の2016年度からは総合学習のテーマとして取りくんでいる高校が増えている。政治教育が中心となる有権者教育は公民科の担当となる場合が多いが、さらに幅広い教育である主権者教育は生徒会活動や部活動や地域活動と連携した体験的な総合学習で推進していくことが望ましいと考えられる。

## 主権者教育・シティズンシップ教育



現在、偏差値学力の高い大学生も社会的・政治的関心が大変低く、主権者意識が世界のなかでも低い(20代の国政選挙の投票率は30%台である)ことが問題になっている。主権者教育、シティズンシップ教育にとって必要な、①自治的活動体験(学校づくり参加・地域づくり参加)、②平和・人権・民主主義の学習(憲法学習)、③政治学習(有権者教育)は総合学習で推進していくことができる。これはすべての高校の課題であるが、

この取り組みも「進学校」の方が手薄であり、受験学力だけでない、主権者としての学力の形成をしていくことが課題である。

文科省は、新学習指導要領で「社会に開かれた教育課程」「教科横断的な視点からの教育課程」の編成を述べ、「主体的・対話的で深い学び」を求めている。総合学習はその点で最も効力のある学習であり、単なる人材育成でなく、日本の教育で不足している主権者を育てる教育として理解され、現場で実践されることが課題である。

※この研究は、科学研究費・基盤研究C・代表和井田清司「21世紀型能力育成と高校改革をめざす高校総合学習の総合的研究」の補助を受けたものである。

#### 【参考文献】

和井田清司『高校総合学習の研究—自律的学習の展開—』三恵社、2012年

和井田清司「高校総合学習の可能性と課題—実践状況と初期評価に関する総合的調査研究」科研費研究・基盤研究C、2004年

高橋亜希子「戦後の高等学校における総合学習の歴史的変遷—青年期の『学び』の回復としての試み—」『中央学院大学社会システム研究所紀要』8巻2号、2008年

宮下与兵衛『高校生の参加と共同による主権者教育—生徒会活動・部活動・地域活動でシティズンシップを』かもがわ出版、2016年

宮下与兵衛編『地域を変える高校生たち—市民とのフォーラムからボランティア、まちづくりへ』かもがわ出版、2014年